

氏名(本籍)	安藤 文紀(大阪府)
学位の種類	博士(鍼灸学)
学位記番号	鍼博乙第16号
学位授与の日付	平成24年 3月 15日
学位授与の要件	大学院規則第34条第2項および学位規程第5条第2項該当
学位論文題目	頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の鼻部皮膚温に及ぼす効果
論文審査委員	(主査) 北小路 博司 (副査) 矢野 忠 (副査) 川喜田 健司

論文内容の要旨

【目的】特殊鍼法の一つである頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の鼻部皮膚温に及ぼす効果について検討した。

【方法】実験1: 健常成人を対象に片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の顔面皮膚温に及ぼす影響を観察した。実験2: 健常成人を対象とし各被験者に、頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激、皮膚鍼通電刺激、頸部交感神経幹近傍圧迫の3種類の刺激を無作為の順序で行い、鼻部皮膚温に及ぼす影響を観察した。両実験とも皮膚温測定にはサーモグラフィを用いた。

【結果】片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激により両側の鼻部皮膚温の有意な低下が刺鍼30秒後から2分後まで観察された。皮膚鍼通電刺激、頸部交感神経幹近傍圧迫では、鼻部皮膚温の変化は生じなかった。

【考察および結論】片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激による交感神経への電気刺激、あるいは交感神経幹近傍組織の侵害受容線維への刺激により、鼻部皮膚血管に分布する両側の上頸神経節節後線維が興奮し、皮膚血流の減少により鼻部皮膚温が低下したものと考えられた。このことから頸部交感神経幹近傍の鍼通電刺激は星状神経節ブロックと異なる新たな療法としての臨床応用が期待される。

論文審査の結果の要旨

本論文は、特殊鍼法の一つである頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の鼻部皮膚温に及ぼす効果について検討したものである。実験1として健常成人を対象に片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の顔面皮膚温に及ぼす影響を観察した。また、実験2として健常成人を対象とし各被験者に、頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激、皮膚鍼通電刺激、頸部交感神経幹近傍圧迫の3種類の刺激を無作為の順序で行い、鼻部皮膚温に及ぼす影響を観察した。両実験とも皮膚温測定にはサーモグラフィを用いた。

その結果、片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激により両側の鼻部皮膚温の有意な低下が刺激30秒後から2分後まで観察された。皮膚鍼通電刺激、頸部交感神経幹近傍圧迫では、鼻部皮膚温の変化は生じなかった。これらの結果は、片側の頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激による交感神経への電気刺激、あるいは交感神経幹近傍組織の侵害受容線維への刺激により、鼻部皮膚血管に分布する両側の上頸神経節節後線維が興奮し、皮膚血流の減少により鼻部皮膚温が低下したものと考えられた。このことから頸部交感神経幹近傍の鍼通電刺激は星状神経節ブロックと異なる新たな療法としての臨床応用が期待された。

本研究は、頸部交感神経幹近傍鍼通電刺激の臨床的有効性のメカニズムの一端を明らかにしたことに意義がある。以上により、本論文は、博士（鍼灸学）の学位を授与するに値するものと認める。

（主論文公表誌）

明治国際医療大学誌 第6巻 平成24年